

京都市考古資料館特別展示「京焼の萌芽」によせて

京都市考古資料館 原山 充志

京都市内を発掘調査すれば、各時代の数多くの焼きものが出土します。とくに桃山時代から江戸時代にかけての遺跡では、多彩な茶陶が含まれ、茶の湯が隆盛した時代であったことがよくわかります。これらの茶陶のなかに「軟質施釉陶器」と呼んでいる聞き慣れない焼きものがあります。初期の京焼と関連して、最近この焼きものが注目されています。

今回、この軟質施釉陶器と京焼とのつながりを紹介したいと考え、特別展示「京焼の萌芽」を開催することにいたしました。

ここでは、室町幕府が崩壊した一五七三年（天正元）以後から乾山が没する一七四三年（寛保三）までの間を扱いました。

写真パネルは、三条界限の焼きもの屋が描かれている「洛中洛外図」、軟質施釉陶器が出土した発掘現場や出土遺物で構成しました。

復元された金炭窯きんすみがまや乾山窯けんざんの出土窯道具も展示しております。また、採取した聚楽土で、当代の樂吉左衛門氏が実験的に赤楽茶碗を作陶された作品も展示しました。

遺物では、洛中や伏見で出土した様々な軟質施釉陶器を地点別に展示し、仁清焼や乾山焼までの京焼きの流れを追いました。とくにおしろうじやき押小路焼に関する未成品を含む陶片は、京焼の背景を知る上で貴重な資料であります。

これらの展示品を通覧すると、新規で独創的な焼きものを好んだ「京焼の世界」が再現されています。京焼の源流ともいべき軟質施釉陶器、新規作陶に挑戦する初期京焼の姿がよく現れています。

京焼の魅力は現在も生き続けています。京都の歴史文化に思いをはせながら、展示を通じて、出土京焼の更なる魅力を引き出す機会にしていただければ、主催者一同、望外の喜びと存じます。

(展示ご挨拶文より抜粋)



洛中洛外図屏風（上：右双・下：左双 佐渡・妙法寺所蔵）



三条界限の町並み（同上）



両替屋（上）と焼き物屋（下）の店棚



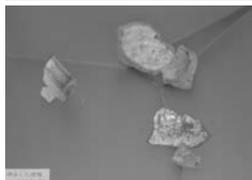
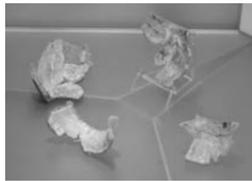
展示風景（入口正面）



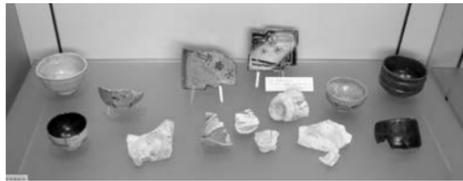
軟質施釉陶器と華南三彩
（中之町・下白山町ほか）



展示風景（展示室内）



釉薬を調合した坩堝
(東八幡町)



洛中の軟質施釉陶器と青織部向付



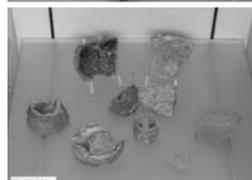
三条界限・焼物屋の匣鉢と素地
(上：弁慶石町・下：中之町)



伏見城下の
軟質施釉陶器



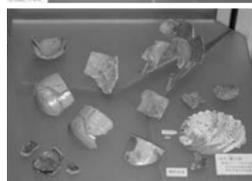
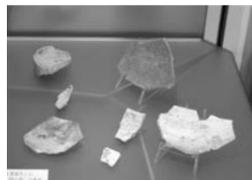
洛中出土の軟質施釉陶器と
瓦器・素焼鉢・灰器(函谷鉢町ほか)



「樂」の器と窯道具
(小川町ほか)



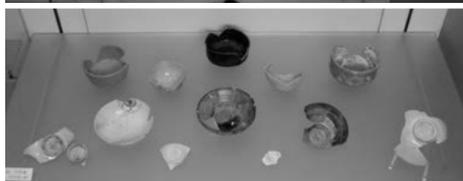
下京で焼かれた軟質施釉陶器と窯
(元本能寺南町)



墨描きの素地と軟質施釉
陶器(東八幡町)



「押小路」の軟質施釉陶器・素地と窯道具
(東八幡町)



「押小路」の京焼
(東八幡町)



仁清の器
(仁和寺旧境内ほか)



公卿町の軟質施釉陶器
(京都御苑)



公家町の京焼
(京都御苑)



洛中の「乾山」と鳴滝乾山窯の出土品
(下段右隅：贗作「乾山」銘香炉)



展示風景(展示室北壁)



鳴滝乾山窯の窯道具：窯壁・金炭窯外窯・匣鉢



鳴滝乾山窯出土の花鳥文茶碗
(安南写し 乾山作)



鳴滝乾山窯の窯道具：匣鉢蓋・撚り土・円形トチン・輪トチン円錐ピン・ピン台



復元された金炭窯：外窯・内窯・内窯蓋・色見孔蓋(立命館大学 木立雅朗氏)

展示総点数：約 650 点

展示期間：2009年3月1日～9月30日

※ 鳴滝乾山窯の出土品は、法蔵禅寺所蔵